

八鹿病院ニュース

平成15年5月 発行 / 八鹿病院広報委員会 <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp/>

公立八鹿病院基本理念

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。』

公立八鹿病院現地新築整備事業

新病院建設工事について

現在の工事状況

現況の写真

現在進めております第1期工事は、新病院の高層部分並びにエネルギー棟の建設工事です。第1期工事の終了は平成16年11月です。その後、第2期工事続いて外構工事へと続きます。

現在の状況は、新病院の基礎部分の工事を行っております。病棟北館と南館の間に立ち上げました大きなタワークレーンは、高層病棟部分を建設するにあたり設置いたしました。既存施設が隣接しているため、建築資材の搬入経路が確保できません。このタワークレーンを使用し、離れたところからでも工事箇所に資材が搬入可能となり、また、高層建物にも資材が吊り上げられます。

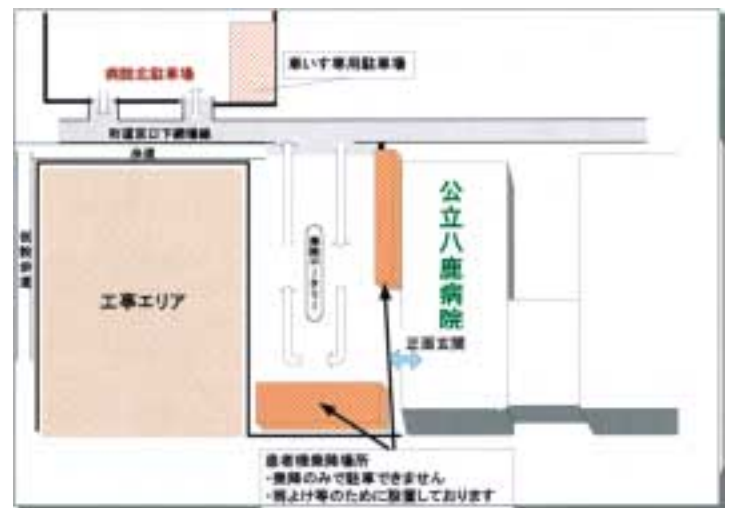


既存建物間に設置したタワークレーン

仮設患者様乗降場所と車いす専用駐車場のご案内

新病院建設工事にあたり、患者様乗降場所と車いす専用駐車場を仮設で設置しております。ご不便をおかけいたしますが、新病院建設にご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願いたします。

建設企画課



介護老人保健施設と介護保険

平成12年4月1日より導入された介護保険も3年が経過し本年4月一部改正がありました。当施設の概要と改正後の介護報酬についてお知らせいたします。

介護保険とは、高齢化の進展に伴い、高齢者介護が大きな問題となる中、医療と福祉を総合的に提供するサービス事業所を利用者が自由に選択し日常生活を営むことができるよう支援する制度です。

1. 施設の概要

- (1) 基本理念 - - 生命の尊厳を大切にし人間愛を持って利用者に生きがいを与えることを目標に看護・介護する。
- (2) 目的 - - 看護、医学的管理の下での介護や機能訓練、その他必要な医療と日常生活上のお世話などの介護保健施設サービスを提供することで、入所者の能力に応じた日常生活を営むことができるようにし、1日でも早く家庭での生活に戻ることができるように支援すること、また、利用者の方が居宅での生活を1日でも長く継続できるよう、短期入所療養介護や通所リハビリテーションといったサービスを提供し、在宅ケアを支援する事を目的とした施設です。
- (3) 入所定員 - - 98名(個室2室・4人室24室)
- (4) 通所リハビリ定員 - - 40名
- (5) サービス内容 - - 1. 通所リハビリテーション 2. 短期入所療養介護 3. 介護保険施設サービス

2. 利用料(1回及び1日当たり)の金額(円)

利用による食事・日用品費等は別途必要です

通所リハビリテーション			短期入所療養		介護保健施設		
基本部分	加算部分		要支援	要介護	要介護	外泊	
要支援	5630	食事提供	9790	1	8490	初期	4440
要介護1	6990	送迎(片道)	要介護1	10130	要介護2		300
要介護2	6990	入浴介助	要介護2	10620	要介護3	退所前後訪問指導	4600
要介護3	9720	特別入浴介助	要介護3	11150	要介護4	退所時指導	4000
要介護4	9720	個別リハビリ(退所1年以内)	要介護4	11690	要介護5	退所時情報提供	5000
要介護5	9720	個別リハビリ(退所1年超)	要介護5	12220		退所前連携	5000
						訪問看護指示	3000

睡眠時無呼吸症候群への取り組み

時速270kmで走行中に居眠り運転。想像もできないような事故が実際に起きてしまいました。この事故が報道されて以来「睡眠時無呼吸症候群」という病気が注目されるようになりました。今回は睡眠時無呼吸症候群についてのお話です。

1. 当院での取り組み

1. 検査

睡眠時無呼吸症候群の検査は脳波の記録も行う「精密法」と、それ以外の「簡易法」に分けられます。八鹿病院では、簡易法は平成9年から、精密法は平成10年から行っております。治療法の決定には精密法が必要です。

精密法は「終夜睡眠ポリグラフィー」という名前で、夜間に病院で寝ているうちに行う検査です。この検査により、無呼吸・低呼吸指数(呼吸が弱くなったり止まったりする頻度を1時間当たりの回数で表したものを)等を調べて、重症度等を判定します。平成10年7月から平成15年4月までの間に497名(男性384名・女性113名)の方に延べ767回の検査を行いました。図1は上段がCPAP無し、下段がCPAP使用中の検査結果です。「無呼吸」と示した赤い線が、CPAP使用によりほぼ完全に消失しています。「睡眠ステージ」と示したところを比較すると、CPAP使用中のほうぐっすりとお眠れしていることが解ります。[図1]簡易検査としては、パルスオキシメータという腕時計くらいの大きさの装置を用いており、自宅でも検査が可能です。[図2.]

2. 治療

治療の代表は鼻マスクを用いたシーバップ(CPAP)と呼ばれるもので、現在100名程度の方が使用中です。他には耳鼻科手術・歯科装具装着等があります。

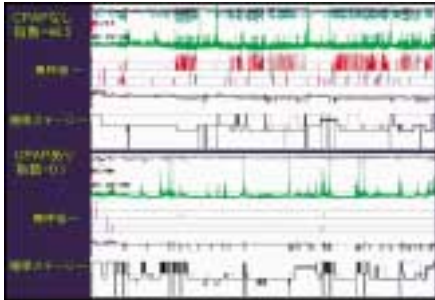


図1.終夜睡眠ポリグラフィーの例



図2 簡易型の検査器(パルスオキシメータ)

2. 眠気の常識

眠気に関しては誤解されていることがたくさんあります。

昼食をたくさん摂ると眠くなる。
昼間でも、暖かい暗い部屋で、退屈な講演等を聴いていると眠くなる。
昼間でも、変化の乏しい高速道路を一定のスピードで長時間走っていると眠くなる。
アルコールを飲むと眠くなる。

これらは日常経験することもあり、「あたりまえの事」のような気がしますが、すべて異常な眠気です。このような状況で眠くなる場合は、背後に睡眠不足が隠れていることを意味しています。

1. 睡眠負債

人には夜間に8時間前後の睡眠が必要とされています。夜更かしをした翌日には通常より早い時間から眠くなり、普段より長時間眠ってしまうことは、誰でも経験があるでしょう。その日その日に取るべき睡眠の「ノルマ」があって、足りなかった分は「借金」が借金の様に貯まっていきます。これを「睡眠負債」と呼びますが、この借金は睡眠をとること以外では返済されません。現代社会は睡眠を犠牲にして成り立っているような一面があり、多くの人が睡眠負債を背負っています。しかも重症の睡眠時無呼吸症候群があれば、無呼吸により睡眠が分断されたため、いくら睡眠時間を長くしても返済できないのです。日頃コーヒーを飲んだりしながら無理をしています。背中に背負った「借金」の重さに耐えかねてくじけてしまうことがあります。その時たまたま高速で動く列車を運転していたり、大型タンカーを操縦していたり、原子力発電所の操業中であつたり、スペースシャトルの打ち上げ準備中であつたり、高速道路をドライブ中であつたりしたら大惨事に直結します。

2. 眠気と事故

睡眠不足が関与した(全部が睡眠時無呼吸症候群という意味ではありません)大事故としては、スリーマイル島の原発事故(1979年)、スペースシャトル=チャレンジャー号の爆発事故(1986年)、チェルノブイリ原発事故(1986年)、エクソン=バルデス号の座礁事故(1989年)等がよく知られています。また睡眠時無呼吸症候群がある場合の交通事故は、ない場合に比べて3~7倍多いとされています。

表1.は寝ずに起きている時間による作業能力を、血中・呼気中アルコール濃度と比較して調べたものです。17時間起きている状態(朝7時に起床する人が、午前0時まで寝ずに起きている状態)でも完全に「道路交通法違反」に匹敵することがお解り頂けるでしょう。

3. 自覚症状が乏しく、積極的な検査を

睡眠時無呼吸症の検査の結果、無呼吸・低呼吸指数が30を越える(1時間のうち30回より多く呼吸が弱くなったり止まったりする)場合は「重症」と診断します。このような場合でも「昼間眠くてたまらない」と訴える方が意外に少ないのが実情です。「昼食後眠いのは当たり前」という誤った認識からくる場合もありますが、眠気を感じ方に個人差が大きいのも事実です。「しんどい・疲れやすい」とは感じて、「眠い」とは感じていない場合もあります。人間ドック(入院)でも、パルスオキシメータによる簡易検査を行っていますが、極めて重症の睡眠時無呼吸症でありながら全く自覚症状のないものが見つかる場合もあります。お家の人から「いびきがひどくて途中でとまる」と指摘されて病院を訪れる方もいます。

要点は

- 1) 昼間に眠気を自覚したら赤信号。
 - 2) 重症でも全く自覚症状がない場合があるので検査をしてみないと解らない。
- ということになります。

(呼吸器科 杉谷 明則)

表1. 起きている時間と作業能力

起きている時間	血中アルコール濃度	区分	症状	酒量	呼気中アルコール濃度
17時間	0.05% ~ 0.10%	ほろ酔い初期	ほろ酔い気分。脈拍・呼吸数早くなる。話はなめらかになり、抑制が外れる。	日本酒(1~1.5合) ・ビール(大瓶1~2本)	0.15mg/l ~ 0.25mg/l 未満
24時間	0.11% ~ 0.15%	ほろ酔い極期	気が大きくなり、自己抑制が外れる。立てば少しふらつく。	日本酒(2~3合) ・ビール(大瓶2~3本)	0.25mg/l以上

サーモグラフィとは

赤外線を利用した温度計の一種です。人体から放射された赤外線を検知して、カラー写真による温度分布図を作成します。体に接触させて測る体温計とは違い、触れることなく測定できます。

検査方法

検査方法はとても簡単です。測定したい部位(手、足など)をサーモグラフィ装置で写真を撮るだけです。苦痛を伴う検査ではありません。所要時間は平均10分程度ですが、冷水などを使った負荷検査では30分程度かかります。

検査における注意事項

体表面の温度は様々な要因により変動します。正確な検査を行うために、患者様には以下の内容につきまして検査前に注意していただくことがあります。

検査前4時間は禁煙して下さい。

検査直前の食事はさける

測定部位の化粧などはできません。ハンドクリーム、マニキュアも含まれます。

当日は、カイロ、湿布などはできる限り使用しないで下さい。

検査前の発汗を伴う運動は止めてください。

また、検査室入室から約10分間、室内環境の条件に測定部位を慣らすための時間が必要となります。

対象疾患

血行障害(動脈狭窄・閉塞性疾患など)、慢性疼痛、自律神経障害(自律神経疾患・神経ブロックの効果判定など)など様々な疾患の診断の補助に使われます。

たばこによる温度変化(1)



冷水負荷による温度変化(1)



患者様の権利に関する宣言

公立八鹿病院職員一同は、医療の中心は皆様であり、医療が皆様との信頼関係に成り立つことを認識して、「患者の権利に関するリスボン宣言」に従って、皆様に次のような権利と責任があることを確認します。

1. 良質な医療を受ける権利.....差別されることなく、良質な医療を受ける権利があります。
2. 選択の自由の権利.....医療機関や医師を自由に選択し、また、変更する権利があります。
3. 自己決定の権利.....十分な説明のもとに、自分自身の治療を決定する権利があります。
4. 情報を得る権利.....医療上の全ての自己情報を知る権利があります。
5. プライバシーなどの機密保持を得る権利.....治療で医療従事者が知り得たすべての個人のプライバシーの機密保持を得る権利があります。
6. 人間の尊厳を得る権利.....尊厳を保ち安楽に終末期を迎えるための、あらゆる可能な助力を受ける権利があります。
7. 療養や健康についての教育を受ける権利.....皆様には健康についての教育や、疾病の予防や早期発見についての教育を受ける権利があります。また、出来るだけ健康的な生活習慣を身につける責任があります。